

Pick Up 2

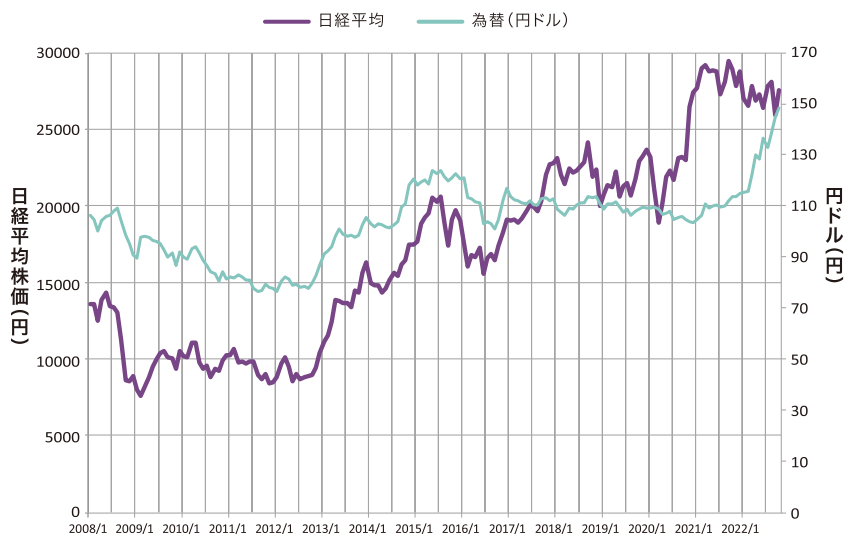
金融緩和の継続で今後も堅調なマーケットが続く！？

日銀による“緩和修正”で円高・株安が進展

経済マーケットの動向を確認しておこう。2022年12月時点のマーケットで最も注目された動きは、なんといっても日銀による「緩和修正」の発表だろう。日銀は12月19～20日の金融政策決定会合で従来の大規模な金融緩和を一部修正し、長期金利の変動許容幅をプラスマイナス0.25%から同0.5%に拡大した。決定後の会見で黒田日銀総裁は「今回の措置は市場機能を改善することが目的で、利上げではない」と説明したが、足元の長期金利が変動幅の上限である0.25%近くで推移していたことから、“事実上の利上げ”と捉える向きが多くなっている。

日銀の発表を受け、外国為替市場では円高の動きが強まった。3月に始まった米国の急速な利上げによる日米金利差の拡大を背景に円安が進んでいたドル・円相場だが、米国での物価上昇圧力の緩和に伴う利上げ減速見通しから10月以降は円高方向に転じていた。日銀が事実上の利上げを決めたことで円高の動きが加速し、一時は131円台まで上昇したが、その後は円高・ドル安の流れが一服し、132円前後での動きとなっている。

株式市場も大きく反応した。日銀の緩和修正発表がサプライズとなり、日経平均株価が一時800円を越す下げ幅となった。その後も株価は弱含みの展開となっており、直近では2万6000円台で推移している。



※上記グラフは日経平均株価(株式会社日本経済新聞社)、円ドル相場(日本銀行)について、月次データ推移を東急リパブルにて作成しました。※日経平均と円相場は月末における中心相場の数値

長期金利の急上昇で住宅ローン金利も上昇へ

長期金利は日銀の発表を受けて上昇した。発表前は変動幅の上限である0.25%に張り付いていた長期金利が、発表後は新たな上限である0.5%を目指して急上昇し、一時0.48%に達した。その後は国債の買い戻して低下に転じ、0.35%～0.4%程度での推移となっている。

